

第334回定例県議会提出

公立大学法人奈良県立医科大学中期目標

奈良県

(平成30年11月30日提出)

目次

前文	1
第1 中期目標の期間	1
第2 基本的な考え方	2
第3 目標の設定	
I 地域貢献	
《教育》 地域に貢献する医療人の確保と質の向上	
1 医師・看護師・保健師の県内定着	3
2 医師の偏在・散在の解消	4
3 看護師の質の向上	5
《研究》 県民の健康増進への貢献	
1 地域に根ざし地域と歩む研究の推進	6
《診療》 地域の医療機関との連携・機能分担の推進	
1 県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践	6
2 病病連携・病診連携の推進	8
3 各領域の担い手となる医療人の育成	9
II 教育 最高の医学と最善の医療を行う「良き医療人」の育成	
1 「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成	10
2 教員の教育能力開発と教育全般に関する360度評価	12
3 学生への支援の推進	12
4 学習環境と教育環境の充実	13
III 研究 最善の医療に貢献する最先端の研究の実施	
1 最善の医療に貢献する最先端の研究の実施	13
2 横連携・他分野連携の推進	14
3 研究推進体制の適性化と強化	14
IV 診療 安全で安心できる最善の医療の提供	
1 県内基幹病院としての機能の充実	15
2 患者満足の一層の向上	16
3 安全な医療体制の確立	17
V 法人運営 持続可能で安定的な法人運営	
1 ガバナンス体制の確立	17
2 医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立	18
3 働き方改革の推進	19

前 文

公立大学法人奈良県立医科大学（以下「医科大学」という。）は、「最高の医学と最善の医療をもって地域の安心と社会の発展に貢献します」を建学の精神とし、県内唯一の医育機関であるとともに、県内医療を支える基幹病院として、重要な役割を担っています。

公立大学法人化した平成19（2007）年度から6年間の第1期に引き続き、平成25（2013）年度から6年間の第2期中期目標期間においても、理事長のリーダーシップのもと、県内での医師の適正配置に向けた体制として県立医大医師派遣センターを設置し、また、周産期医療や高度医療の充実に資するE病棟の整備や中南和地域の救急医療の充実のためER型救急体制を運用するなど、一定の成果を挙げてきました。

一方、最高の医学と最善の医療を行う「良き医療人」育成のための教育のあり方、地域に貢献できる医師・看護師の確保や教職員の勤務のあり方、経営改善の取組等について、なお一層の努力が必要となっています。

このため、平成31（2019）年度から6年間の第3期中期目標では、県は医科大学に対し、高度医療、急性期医療から慢性疾患に対応して、最高の医学と最善の医療を行う「心・知・技」を併せ持つ「良き医療人」の育成及び県内基幹病院として地域医療の充実に貢献することを求めることとしました。また、この達成に向けて、第2期の成果や課題を踏まえつつ、奈良県地域医療構想や奈良県医療費適正化計画などとの整合も図りながら、「地域貢献」「教育」「研究」「診療」「法人運営」の5つの柱立てのもと具体的な目標を定めました。

また、県が策定する中期目標に基づき、中期計画において医科大学が自ら高度医療、急性期医療、慢性疾患の特性に応じた具体的な行動目標を設定することとしました。

医科大学が、全教職員一丸となって第3期中期目標の達成に向けて取り組み、県内唯一の医育機関として、また、県内医療を支える基幹病院として、地域医療の充実に貢献されることを期待します。

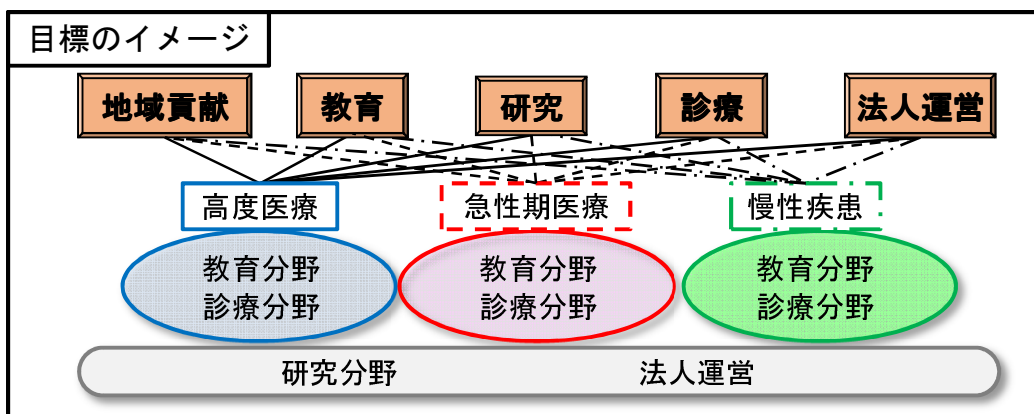
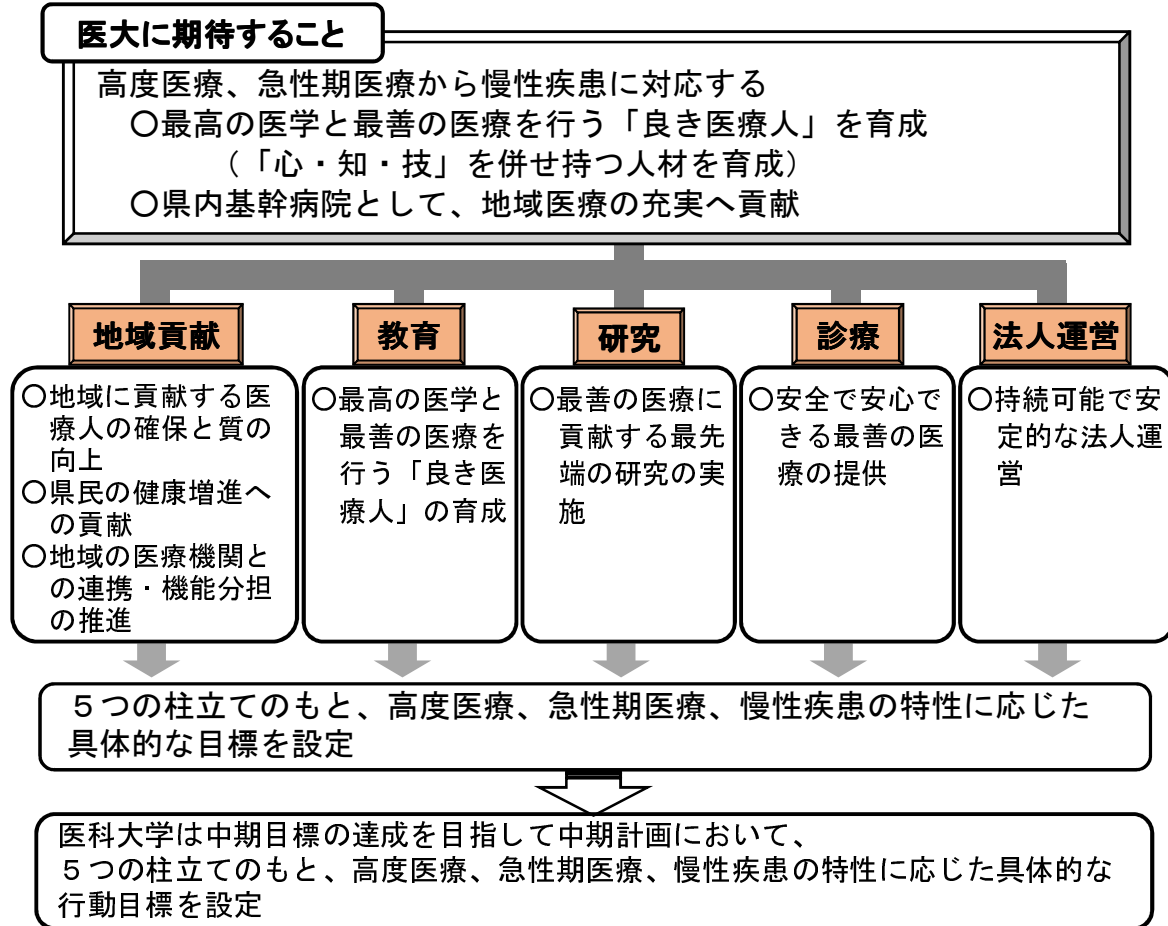
第1 中期目標の期間

平成31（2019）年4月1日から平成37（2025）年3月31日までの6年間とする。

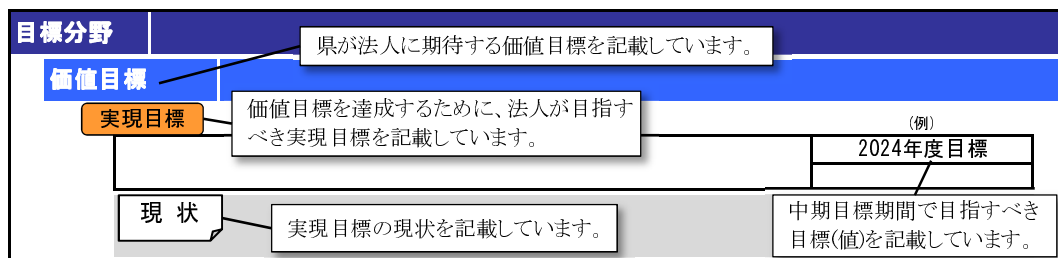
第2 基本的な考え方

本中期目標期間において医科大学に期待することを以下のとおり定め、その実現のために、「地域貢献」「教育」「研究」「診療」「法人運営」の5つの柱立てのもと具体的な目標を設定し、その達成に向け取り組む。

目標の設定に当たっては、奈良県地域医療構想、奈良県医療費適正化計画など関連する計画との整合も図り、それらに資するものとする。



※次ページ以降の「第3 目標の設定」の見方



第3 目標の設定

I 地域貢献《教育》 地域に貢献する医療人の確保と質の向上

価値目標1 医師・看護師・保健師の県内定着

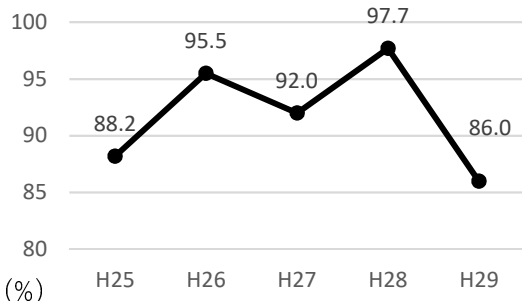
- ・ 県内で質の高い医療を効率的に提供する体制を構築するため、医師を養成・確保
- ・ 県内の看護師等学校養成所を卒業して県外で就業した者が、県外の看護師等学校養成所を卒業して県内で就業する者を上回っている中、地域医療体制を支える看護師を確保
- ・ 健康寿命日本一を目指す上で、保健指導の中心的役割を果たす保健師を確保

実現目標

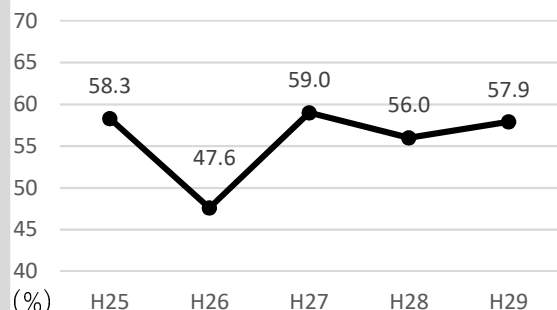
○ 県内で臨床研修を行う医大卒医の県内基幹病院における専攻医登録率の確保	第3期期間平均 80%
○ 医学科卒業生の県内就業率の確保	第3期期間平均 60%
○ 県内医療需給の動向に関する地域医療対策協議会の検討結果に応じた地域枠の人数の調整	定性的目標

現状

○ 医大での初期臨床研修修了医の後期臨床研修における県内定着率



○ 医学科卒業生の県内卒後初期臨床研修病院への就職率

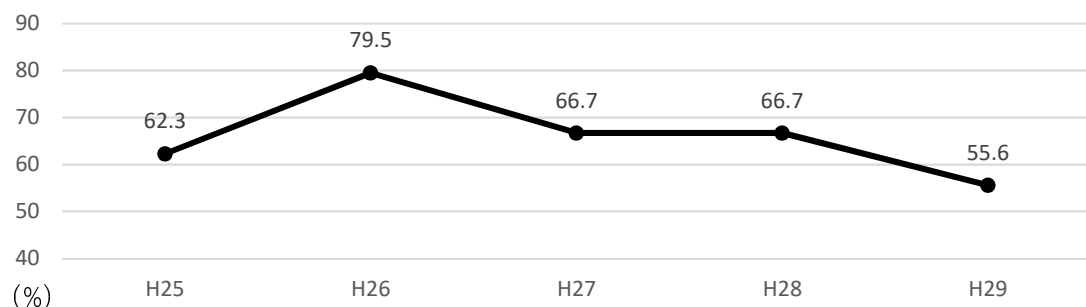


実現目標

○ 看護学科卒業生の県内就業率の確保	第3期期間平均 65%
--------------------	-----------------------

現状

○ 看護学科卒業生の県内就職率



実現目標

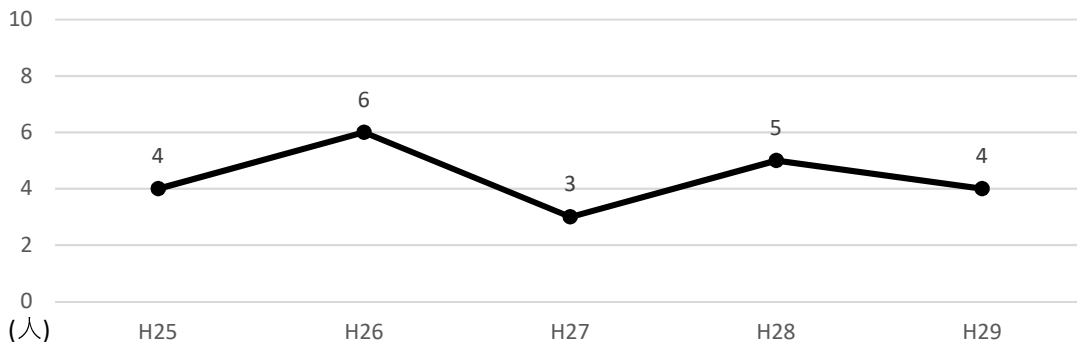
○看護学科卒業生の保健師県内就業者数の増加

第3期期間平均

6人

現状

○看護学科卒業生の保健師県内就職者数



価値目標2 医師の偏在・散在の解消

奈良県の医師数は全国平均を上回ったが、診療科では全国平均を下回る科もある（偏在）ことや、中規模病院が多く、病院当たりの医師数が少ないこと（散在）の是正が必要

実現目標

○県立医大医師派遣センター等を通じた地域の医療機関への配置医師数の増加

第3期期間計

56人

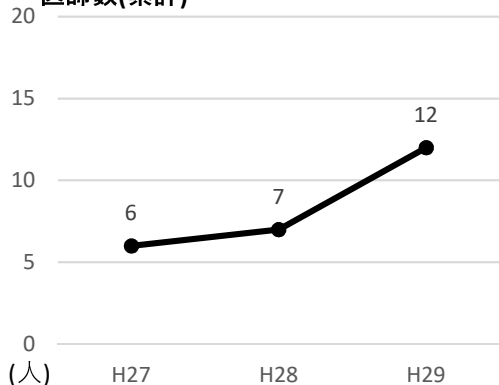
○医師が不足するへき地や診療科、診療分野に従事する医師数の増加

第3期期間計

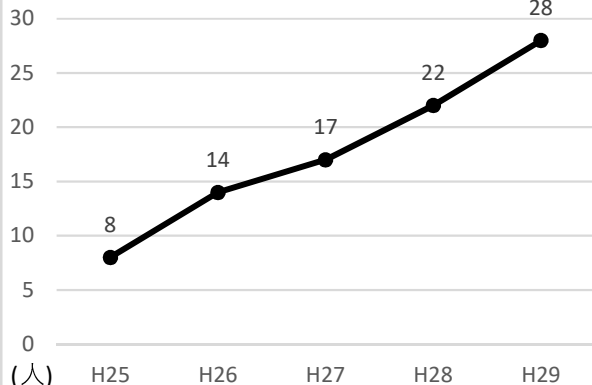
105人

現状

○県立医大医師派遣センター等を通じた地域の医療機関への配置医師数(累計)



○県費奨学生配置センター配置医師数(累計)



価値目標 3 看護師の質の向上

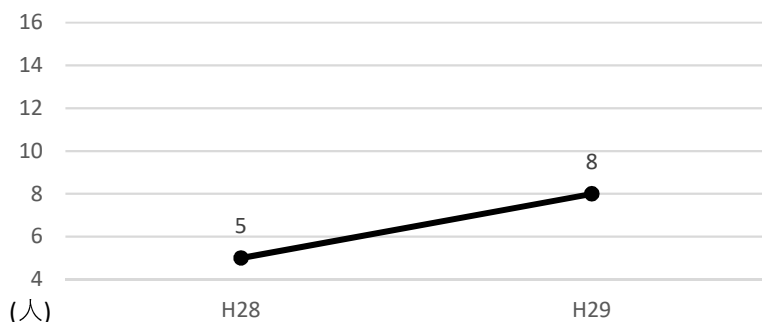
看護職員の役割が拡大する中、専門的な知識と技術に裏付けられた高い看護水準を担保するため、専門看護師や特定行為研修修了者等、高いスキルを持つ看護職員を養成。また、住み慣れた自宅での療養ニーズに対応するため、訪問看護師の質を向上

実現目標

○特定行為研修（急性期コース）を修了した看護師数の増加	第3期期間計 18人
○専門看護師数の増加 （平成29年度～大学院修士課程にコース設置）	第3期期間計 3人

現状

○特定行為研修（急性期コース）を修了した看護師数(累計)



○専門看護師数

平成29年度～大学院修士課程にコース設置

実現目標

○特定行為研修（在宅コース）を修了した看護師数の増加	第3期期間計 36人
○訪問看護ステーションとの連携強化	定性的目標

現状

○特定行為研修（在宅コース）を修了した看護師数

平成30年度新規コース設置（1期生8名在籍）

I 地域貢献《研究》

県民の健康増進への貢献

価値目標 1

地域に根ざし地域と歩む研究の推進

奈良県の医療・保健・福祉に関する諸課題を解決するため、県と連携して研究に取り組み、その成果を県民に還元

実現目標

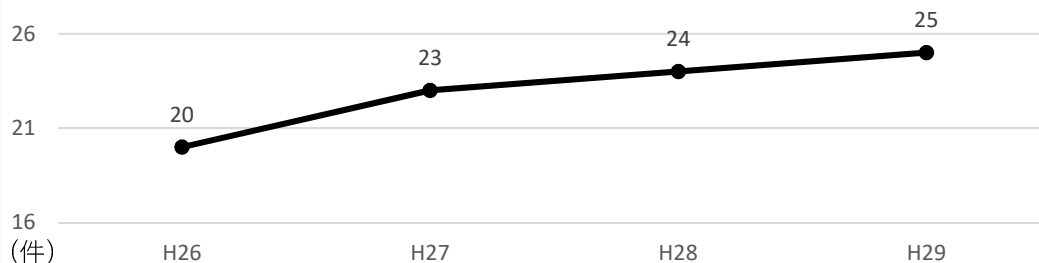
○県民健康増進支援センターによる県・市町村及び民間医療機関等の支援の新規件数（累計）の増加

2024年度目標

累計50件

現状

○県民健康増進支援センターによる県・市町村及び民間医療機関等支援
新規件数(累計)



I 地域貢献《診療》

地域医療機関との連携・機能分担の推進

価値目標 1

県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践

救急医療体制を強化するとともに、奈良県基幹災害拠点病院として、県民を守り地域の安心の確保に貢献

実現目標

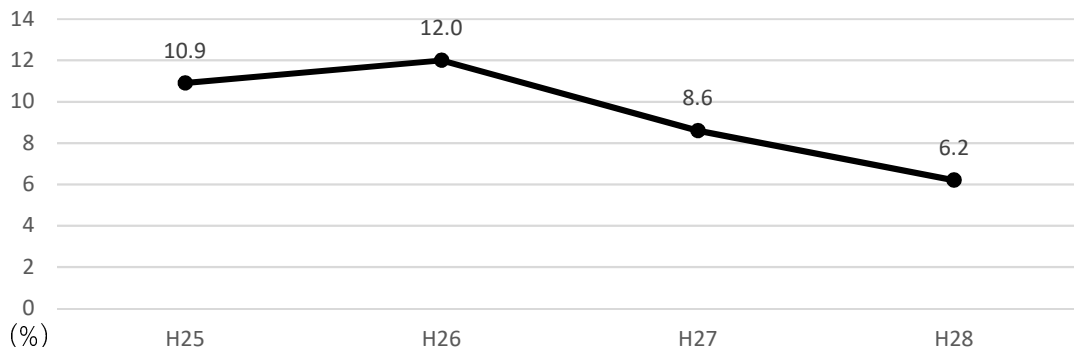
○中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数4回以上の割合の低下

2024年度目標

2.7%

現状

○重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数
4回以上の割合（県全体）



実現目標

○ 24時間365日ER型救急医療体制の確立

定性的目標

○ 救急隊からの受入照会に対する受入率の向上

第3期期間毎年度
100%

○ 新生児県内受入率及びハイリスク妊婦の県内受入率の向上

第3期期間毎年度
100%

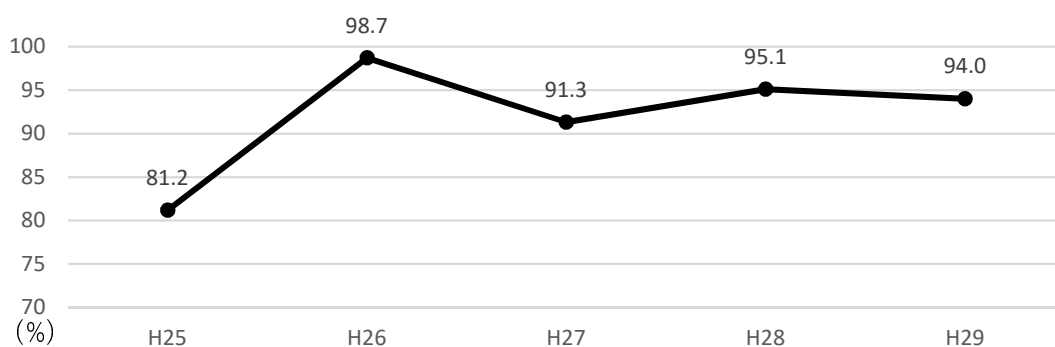
現状

○ 24時間365日ER型救急医療体制の確立

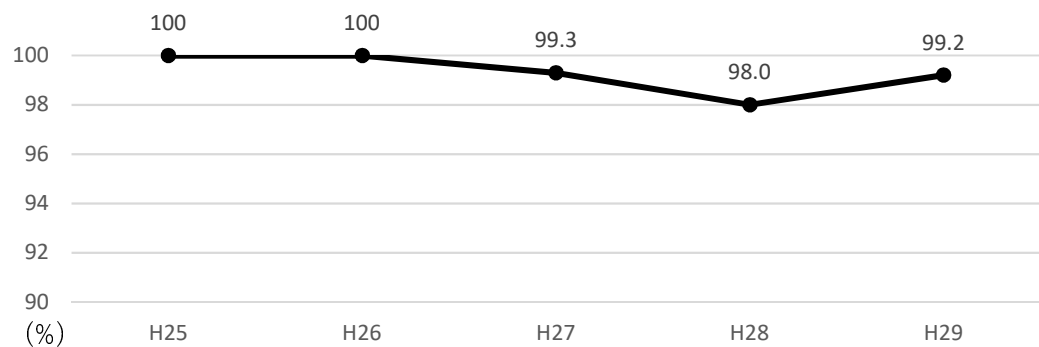
平成27年9月～土日ER運用開始

平成29年4月～土日祝ER運用開始

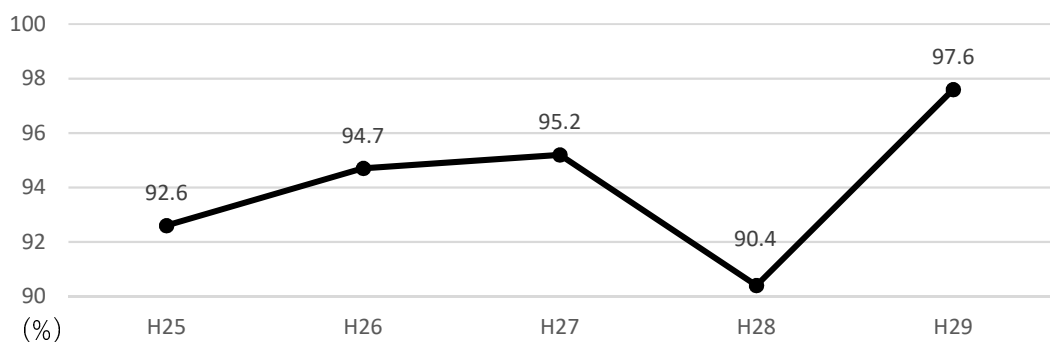
○ 救急隊からの受入照会に対する受入率



○ 新生児県内受入率



○ ハイリスク妊婦の県内受入率



実現目標

○災害医療を支えるDMATチームの育成

2024年度目標
H30年値に比べて2チーム増加

○教職員に対するBCPの周知徹底や他機関との連携を想定した災害医療訓練の検討及び実施

BCP(Business continuity planning)…事業継続計画

定性的目標

現状

○災害医療を支えるDMATチームの育成

平成17年度～設置

平成30年度現在、4チーム体制

○教職員に対するBCPの周知徹底や他機関との連携を想定した

災害医療訓練の検討及び実施

平成29年度：奈良医大附属病院BCP策定

価値目標2 病病連携・病診連携の推進

地域の医療機関との適切な機能分担と緊密な連携を推進し、地域医療を支える

実現目標

○高い紹介率の維持

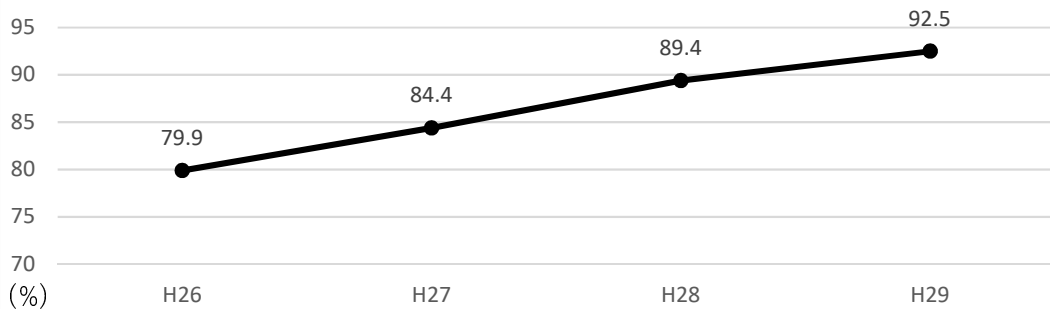
第3期期間毎年度
93%

○高い逆紹介率の維持

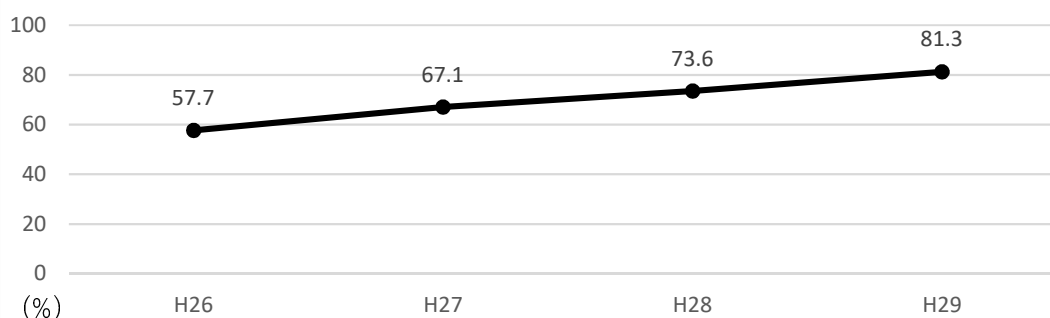
第3期期間毎年度
82%

現状

○紹介率



○逆紹介率



実現目標

○総合診療科に在宅医療部門を設立	定性的目標
○近隣病院との新たな連携の構築	定性的目標
○糖尿病診療ネットワーク専門医協議会による糖尿病医療に係る非専門医から専門医への紹介数の増加への支援	第3期期間毎年度 紹介数が対前年度より増加
○糖尿病専門医養成数の増加	第3期期間計 6人

現 状

- 糖尿病専門医養成数
第2期中期目標期間で1名養成

価値目標3 各領域の担い手となる医療人の育成

質の高い医療を実践できる優秀な医師を確保し、県民が県内で高度な医療が受けられ、地域医療が充実する臨床研究支援体制を確立

実現目標

○臨床研究中核病院の承認を得る	定性的目標
-----------------	-------

Ⅱ 教育

最高の医学と最善の医療を行う「良き医療人」の育成

価値目標 1 「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成

- ・知識・技能はもとより、豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と暖かい心で積極的に交流する医療人の育成
- ・臨床実習を強化し、患者安全に関する基本教育、医療者になる自覚の強化、参加型臨床実習への円滑な移行による臨床マインドの育成

実現目標

- 高度医療における、患者の理解と自己選択を促すコミュニケーションを習得するための学習の充実
- 急性期医療における、患者の理解や受容を促すコミュニケーションを習得するための学習の充実
- 慢性疾患における、患者に寄り添うコミュニケーションや多職種連携を習得するための学習の充実

定性的目標

実現目標

- 医師・看護師・保健師・助産師の現役卒業生の国家試験合格率の向上

第3期期間毎年度

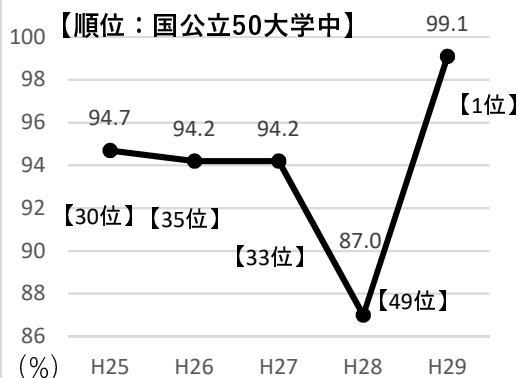
**医師：全国国公立大学
トップ10
看護師・保健師・助産師
：100%**

- 「良き医療人」の資質を持った受験生を増加させるための新たな広報活動の展開

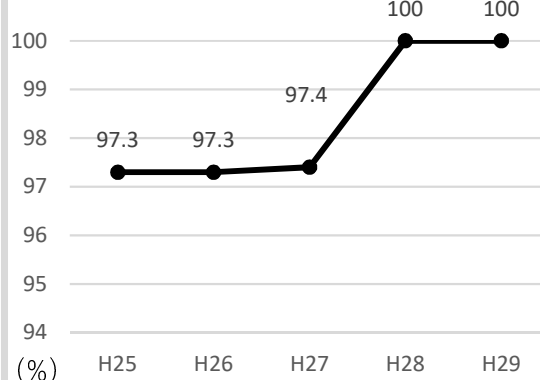
定性的目標

現状

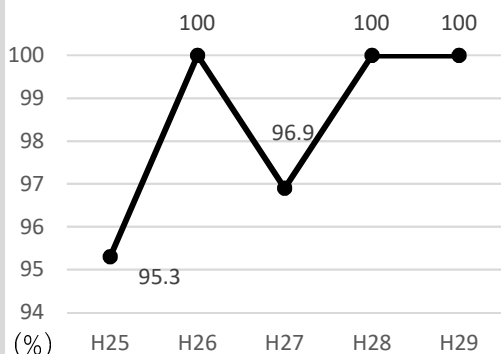
- 医師国家試験合格率(現役)



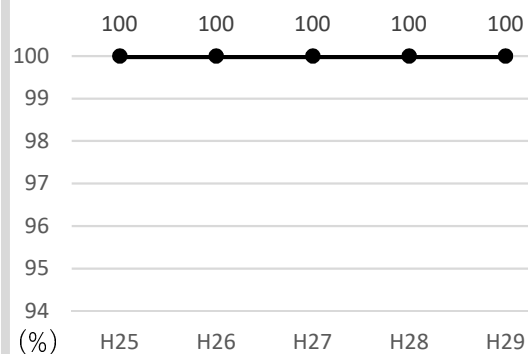
- 看護師国家試験合格率



- 保健師国家試験合格率



- 助産師国家試験合格率



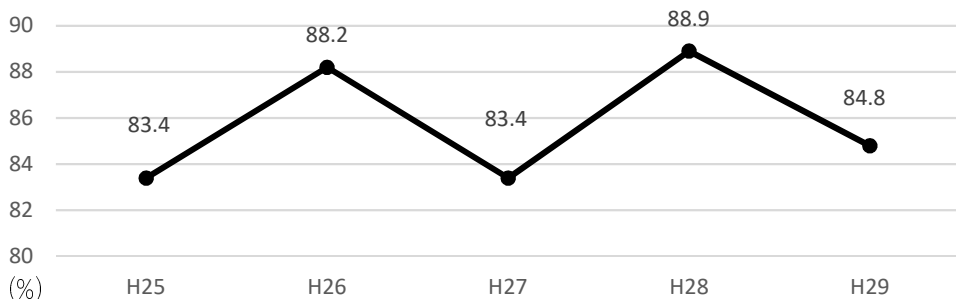
実現目標

○「良き医療人」育成にかかる教養・基礎・臨床・看護各分野におけるカリキュラムの最適化

①CBT合格率の向上 (H29 92.4%) CBT(Computer Based Testing)…臨床実習開始前(4年生時)に実施する共用試験	2024年度目標 ①95%
②Post-CC OSCE合格率の維持 (H29 100%) Post-CC OSCE(OSCE:Objective Structured Clinical Examination) …臨床実習終了後(6年生時)に実施する客観的臨床能力試験	第3期期間毎年度 ②100% を維持
③看護技術項目到達度チェックリストの到達度平均の向上	第3期期間毎年度 ③平均90% 以上

現状

③看護技術項目到達度チェックリスト



実現目標

○臨床実習における学生の経験内容を評価・充実

定性的目標

○教養教育科目の見直し

定性的目標

価値目標 2 教員の教育能力開発と教育全般に関する360度評価

魅力ある教育を実現するため、学生の参加を推進するとともに、教員の教育能力を向上

実現目標

○アクティブ・ラーニングの推進 5つの手法の実施（反転授業、eラーニング、小グループ講義、形成的評価、臨床実習の360度評価）	定性的目標
○授業手法改善のためのワークショップ等の参加率の向上	2024年度目標 100%
○高度な教育・研究力を持った看護系教員養成のための看護学研究科の設置	定性的目標
○学習内容や教育手法の充実度について、各科目単位で学生からの評価を実施・向上	定性的目標

現状

- 授業手法改善のためのワークショップ等の参加率の向上
平成30年度より集計開始

価値目標 3 学生への支援の推進

教員・学生間対話を拡大し、学生全体対話の他、個別面談やカウンセリング等の個別対話を拡大

実現目標

○成績下位者に対する学習支援の実施	定性的目標
-------------------	-------

価値目標 4 学習環境と教育環境の充実

豊かな知識と優れた技能、地域貢献の気概を持った国際水準の医療人を育成するために、学習環境と教育環境を改善

実現目標

○県と連携して新キャンパス先行整備の竣工を目指すとともに、継続整備について検討

先行整備分の
2024年度中の竣工

Ⅲ 研究 最善の医療に貢献する最先端の研究の実施

価値目標 1 最善の医療に貢献する最先端の研究の実施

研究の成果を患者の最善の医療に活かし、県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究の実施により医学の進歩に貢献

実現目標

○PubMed対象の英文学術論文数（累計）の増加

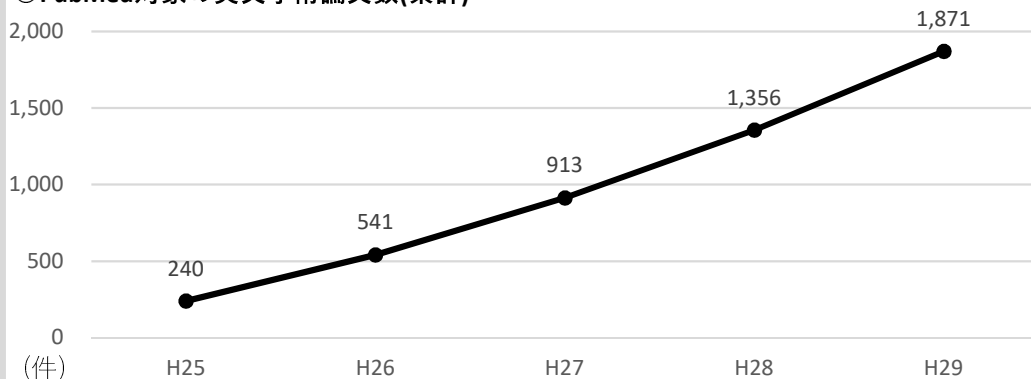
PubMed…アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター（NCBI）が運営する医学・生物学分野の学術論文検索サービス

第3期期間計

2,400件

現状

○PubMed対象の英文学術論文数(累計)



価値目標 2 横連携・他分野連携の推進

講座、領域単位の専門分野の研究に加え、枠組みを超えて連携した研究を推進

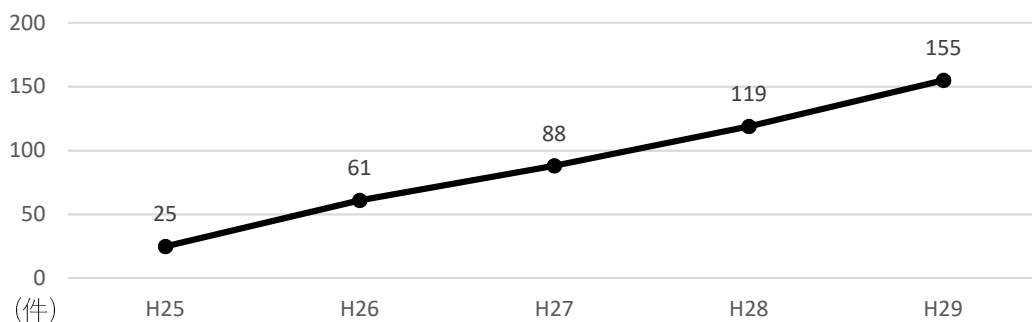
実現目標

○民間企業や他学部との共同研究件数（累計）の増加

2024年度目標
累計200件

現状

○民間企業や他学部との共同研究件数（累計）



価値目標 3 研究推進体制の適正化と強化

若手研究者や女性研究者の育成や研究推進体制の強化による研究の促進

実現目標

○研究推進体制の適正化と強化の推進

①文部科学省科研費採択件数（新規+継続）の増加

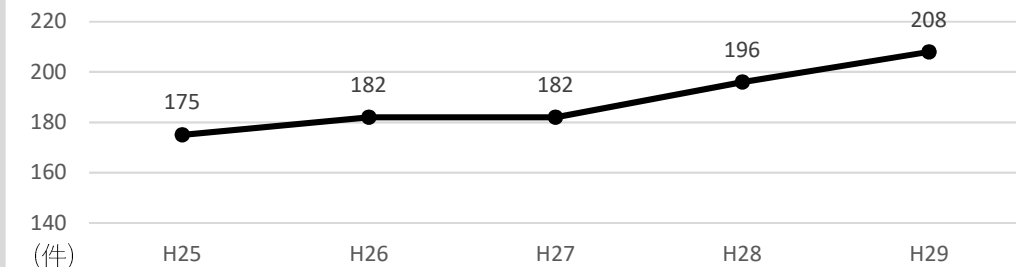
2024年度目標
①212件

②研究活動不正防止研修受講者数（累計）の増加

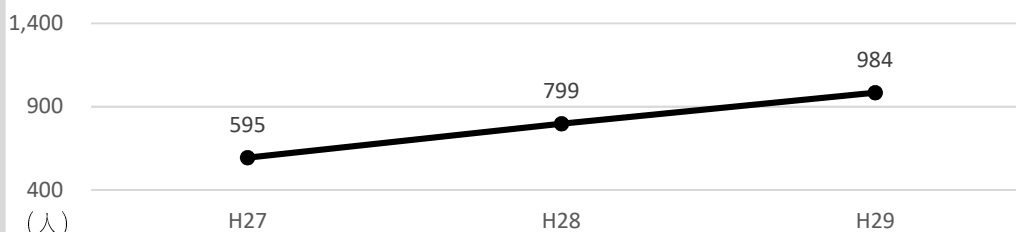
2024年度目標
②累計1,700人

現状

①文部科学省科研費採択件数（新規+継続）



②研究活動不正防止研修受講者数（累計）



実現目標

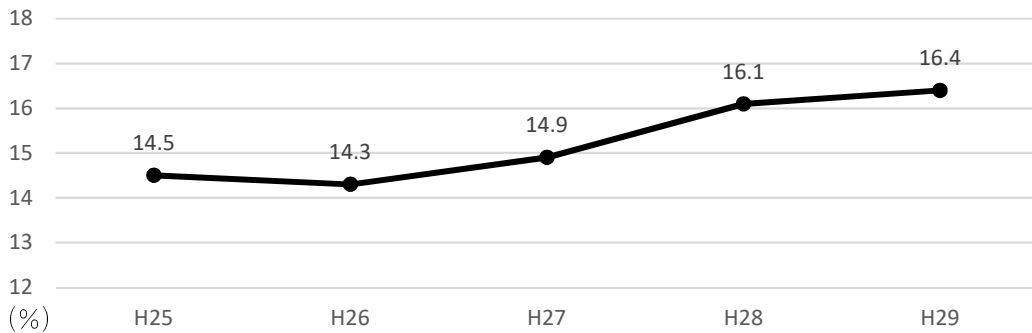
○若手研究者・女性研究者の支援

①若手研究採択件数（新規＋継続）の増加	2024年度目標 ①50件
②女性研究者数（医学科女性教員割合）の増加	2024年度目標 ②20%

現状

①若手研究採択件数（新規＋継続）の増加
平成30年度より制度開始

②女性研究者数（医学科女性教員割合）



IV 診療 安全で安心できる最善の医療の提供

価値目標 1 県内基幹病院としての機能の充実

- ・ 県内唯一の特定機能病院として、高度医療・先端医療を推進
- ・ 県中南部の拠点となる高度医療拠点病院としての役割を担うための診療、人材及び機能の充実

実現目標

○低侵襲手術、高精度放射線治療、精密治療としての薬物療法等を含めた質の高いがん治療実施比率の向上	2024年度目標 60%
○臨床指標（クリニカルインディケーター）の改善 臨床指標（クリニカルインディケーター: Clinical Indicator） …医療の質を定量的に評価する指標	第3期期間毎年度 改善が必要と判断した臨床指標項目のうち、50%以上の項目を改善

現状

○低侵襲手術、高精度放射線治療、精密治療としての薬物療法等を含めた質の高いがん治療実施比率の向上

平成29年度：51.4%（平成29年度より集計開始）

○臨床指標（クリニカルインディケーター）の改善

平成30年度より集計開始

実現目標

○認定看護師等の増加

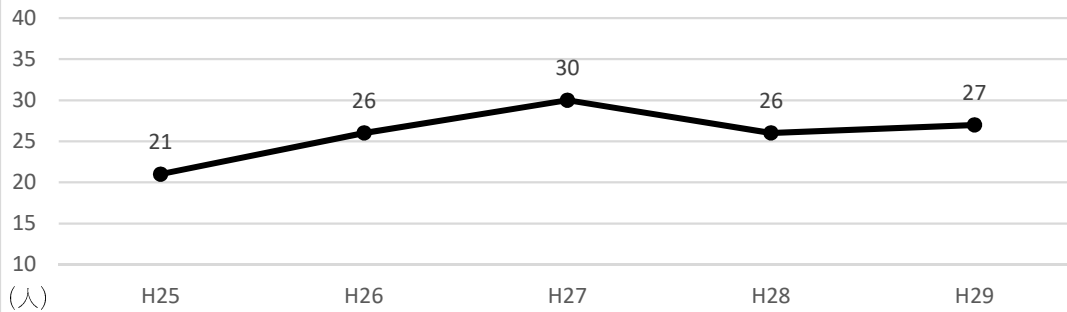
第3期期間計
15人増加

○新外来棟等附属病院整備計画の検討

定性的目標

現状

○認定看護師数



価値目標2 患者満足の一層の向上

医療人のホスピタリティマインド醸成や患者の意見及び要望を適切に反映することにより、患者の診療に対する満足度を維持

実現目標

○患者満足度調査において「非常に満足」「満足」と回答した割合の維持

第3期期間毎年度
90%以上

○患者満足度調査において診察の待ち時間について「不満」「やや不満」と回答した割合の維持

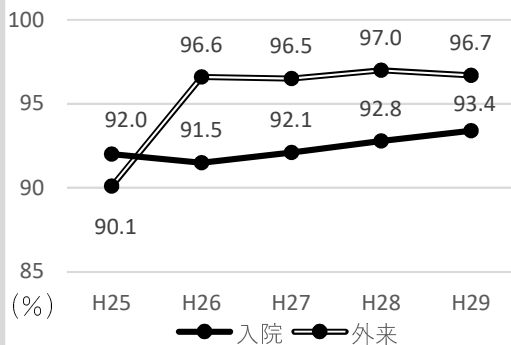
第3期期間毎年度
30%以下

○ホスピタリティマインド醸成研修受講者アンケートにおいて「業務に活用できる」「研修内容を理解できた」と回答した割合の向上

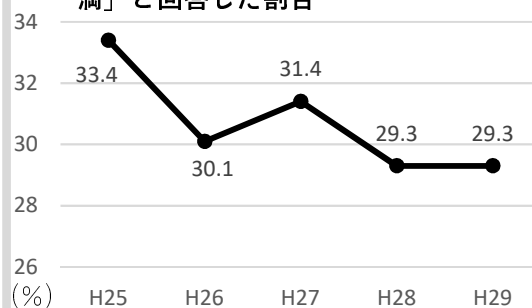
2024年度目標
65%

現状

○患者満足度調査において「非常に満足」「満足」と回答した割合



○患者満足度調査において診察の待ち時間について「不満」「やや不満」と回答した割合



○ホスピタリティマインド醸成研修受講者アンケートにおいて「業務に活用できる」「研修内容を理解できた」と回答した割合の向上
平成29年度：55%（平成29年度より集計開始）

価値目標 3 安全な医療体制の確立

県内医療機関による安全で透明性が高く、県民から信頼される医療の提供

実現目標

○患者安全対策提案数の増加

第3期期間計
18件

現状

○患者安全対策提案数の増加
平成30年度より集計開始

V 法人運営 持続可能で安定的な法人運営

価値目標 1 ガバナンス体制の確立

理事長の下、全教職員のコンプライアンスの徹底を図り、責任所在の明確化と合理性を徹底したガバナンス体制の構築

実現目標

○評価委員会の全体評価での好成績の維持

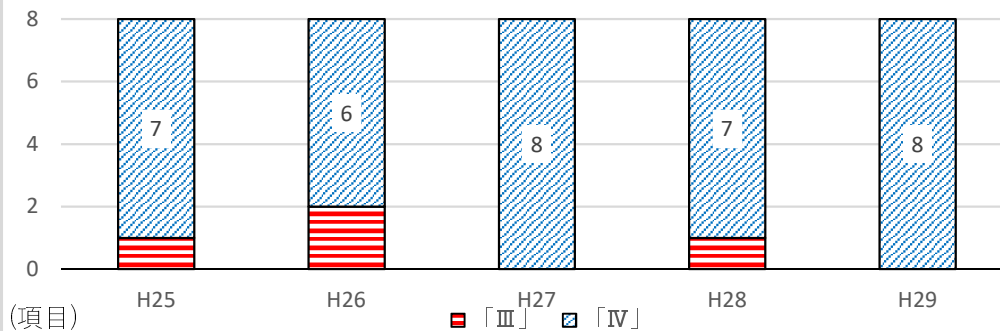
定性的目標

○教育、研究及び法人運営等の情報発信の推進

定性的目標

現状

○評価委員会全体評価「Ⅲ」以上の項目



価値目標 2

医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立

公立医療機関として率先して医療費適正化を推進するとともに、教育・研究・診療を安定的に提供するための持続可能な経営基盤を確立

実現目標

○繰越欠損金の縮減

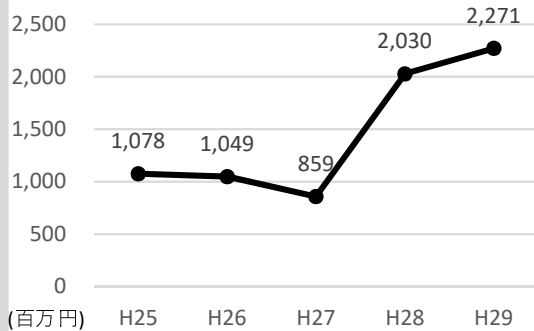
2024年度目標
H29実績より縮減

○未来への飛躍基金寄附実績（累計）の増加

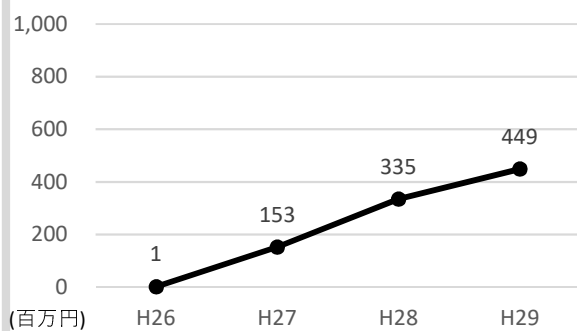
2024年度目標
累計10億円

現状

○繰越欠損金



○未来への飛躍基金寄附実績（累計）



実現目標

○院内処方の影響を除いた医薬収益に対する医薬品比率、診療材料費比率の維持

第3期期間毎年度
公立医科系大学最低を維持

○院内処方の影響を除いた医薬収益に対する労務系委託費＋給与費合計比率の抑制

第3期期間毎年度
公立医科系大学の平均以下

○後発医薬品の使用割合（数量ベース）の増加

2024年度目標
80%

現状

○院内処方の影響を除いた医薬収益に対する医薬品比率、診療材料費比率の維持

平成29年度医薬品比率：22.0%、診療材料費比率：35.9%

（平成29年度公立医科系大学平均

医薬品比率：25.2%、診療材料費比率：40.1%）

平成29年度より集計開始

○院内処方の影響を除いた医薬収益に対する労務系委託費＋給与費合計比率の抑制

平成29年度：51.45%

（平成29年度公立医科系大学平均 50.54%）

平成29年度より集計開始

○後発医薬品の使用割合（数量ベース）の増加

平成30年度より集計開始

価値目標 3 働き方改革の推進

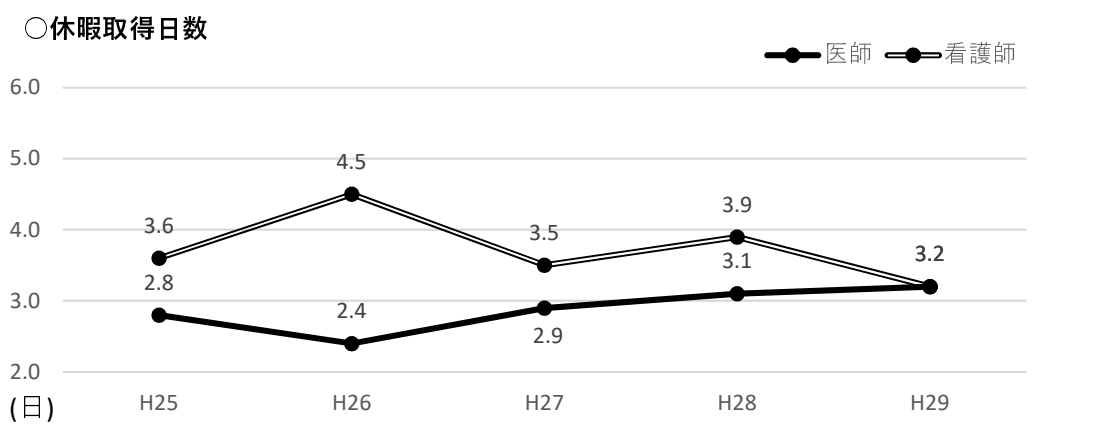
- ・「働いて良し」を実現するために、働き方改革を推進し、人を引きつける魅力ある職場づくりを推進
- ・障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会の実現を目指して、障害のある人が、自分の能力が発揮できる仕事に就くことができ、安心して働き続けることができる組織の確立

実現目標

○教職員を対象とする「ワークライフバランスに関するアンケート」の項目における満足度の向上	第3期期間毎年度 全教職員の満足度を 対前年度より改善
○休暇取得日数の増加	2024年度目標 7.5日
○男性の育休取得率の増加	2024年度目標 13.0%

現状

- 教職員を対象とする「ワークライフバランスに関するアンケート」の項目における満足度の向上
平成30年度より集計開始



- 男性の育休取得率の増加
平成30年度より集計開始

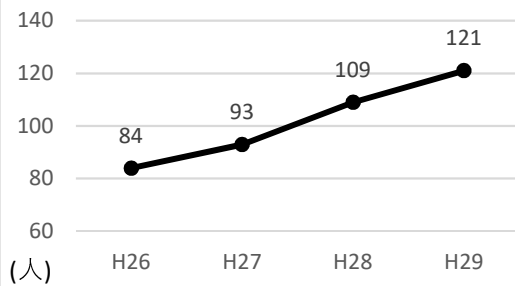
実現目標

○超過勤務の縮減	第3期期間毎年度 職種別1人当たり超過勤務時間を 対前年度より常に減少
○女性医師数（週5日勤務）の増加	2024年度目標 140人
○看護師の在職率の維持	第3期期間毎年度 常に全国平均離職率の△1%
○復職支援カリキュラムの満足度の向上	2024年度目標 満足度60%

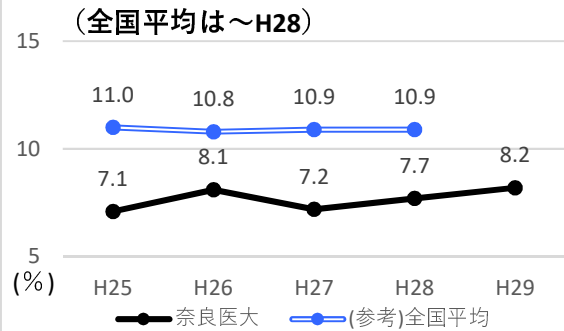
現状

○超過勤務の縮減
平成30年度より集計開始

○女性医師数



○看護師離職率



○復職支援カリキュラムの満足度の向上
平成30年度より集計開始

実現目標

○障害者雇用率の向上	2024年度目標 2.82%以上
------------	----------------------------

現状

○障害者雇用率

